

新学習指導要領に示された 各教科における「見方・考え方」とは

平成29年3月公示の小学校・中学校学習指導要領において、深い学びの鍵として「見方・考え方」という用語で整理され、示されました。同年4月公示の特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、平成30年3月公示の高等学校、平成31年2月公示の特別支援学校高等部学習指導要領についても、同様に示されています。「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が重要なキーワードとなっていますので、今回は、障害のある児童生徒のみならず、すべての児童生徒を対象に、その内容やポイントを紹介します。

1 「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けて

今回の学習指導要領の改訂では、育成をめざす資質・能力の明確化と、その育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示され、授業改善を進める際の留意点がまとめられています。

各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える「見方・考え方」が鍛えられていくことに留意が必要です。児童生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たって、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要です。習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつないでいきます。

具体的な授業の在り方は、児童生徒の発達の段階や学習課題等により様々であるので、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となるような、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けさせるために、児童生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが求められます。児童生徒の実際の状況を踏まえながら、資質・能力を育成するために多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要であり、例えば高度な社会課題の解決だけを目指したり、そのための討論や対話といった学習活動を行ったりすることのみが主体的・対話的で深い学びではない点に留意が必要です。

2 各教科等の特質に応じた学習活動等の充実

今回の改訂では、各教科等の指導計画の作成上の配慮事項として、当該教科等の特質に応じた主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について示されています。具体的には、各教科等の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の指導計画の作成に当たっての配慮事項として、共通に「単元（題材）など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること」とした上で、当該教科等の特質に応じてどのような学習活動等の充実を図るよう配慮することが求められるかが示されています。

以下に、各教科等における学習活動等の充実を図るための配慮事項をまとめて示します。

<小学校>

国語科	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること
社会科	問題解決への見通しをもつこと、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え概念などに関する知識を獲得すること、学習の過程や成果を振り返り学んだことを活用することなど、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図ること
算数科	数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること
理科	理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、問題を科学的に解決しようとする学習の充実を図ること
生活科	児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図ることとし、校外での活動を積極的に取り入れること
音楽科	音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること
図画工作科	造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること
家庭科	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること

体育科	体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること
外国語科	具体的な課題等を設定し、児童が 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方 を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること
外国語活動	具体的な課題等を設定し、児童が 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方 を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること
総合的な学習の時間	児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が 探究的な見方・考え方 を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること
特別活動	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、児童が 集団や社会の形成者としての見方・考え方 を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること

<中学校>

国語科	言葉による見方・考え方 を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること
社会科	分野の特質に応じた見方・考え方 を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること
数学科	数学的な見方・考え方 を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること
理科	理科の学習過程の特質を踏まえ、 理科の見方・考え方 を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること
音楽科	音楽的な見方・考え方 を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること

美術科	造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること
保健体育科	体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること
技術・家庭科	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること
外国語	具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現文法の知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること
総合的な学習の時間	生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること
特別活動	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること

＜高等学校＞※共通教科、総合的な探究の時間、特別活動のみ

国語科	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること
地理歴史科	科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること
公民科	科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象等の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること
数学科	数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること
理科	理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通し

	をもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること
保健体育科	体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること
芸術科	各科目における見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動の関連を図るなどして、芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりする過程を大切にしたい学習の充実を図ること
外国語科	具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること
家庭科	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること
情報科	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報と情報技術を活用して問題を発見し主体的、協働的に制作や討論等を行うことを通して解決策を考えるなどの探究的な学習活動の充実を図ること
理数科	数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、様々な事象や課題に向き合い、主体的に探究することができるよう創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること
総合的な探究の時間	生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究の見方・考え方を働かせ、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること
特別活動	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること

＜特別支援学校＞

※小・中学校、高等学校に準ずる。知的障害教育についての考え方は以下のとおり

知的障害のある子供たちにとって、各教科の指導は、将来の生活に必要な豊かな「見方・考え方」を育む機会であり、子供たちの日常生活に直接つながる学習活動のみにとどまらず、子供たちの将来の自立や社会参加に向けて必要な資質・能力を育成する視点から指導計画を立てることが重要です。

その上で、実社会や実生活に関連した課題に注目して、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な定着や活用を図る学習活動の充実を一層重視することにより、学びが人生や社会に生かされるよう、主体的に学ぶ意思や意欲を喚起することが必要です。

知的障害のある子供たちのための各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等において定められている目標を達成する必要があるため、各教科等の学習を通して育成する資質・能力を明確にして指導を行うことが必要です。このため、各教員が、教科別や領域別に指導を行う場合の基本的な考え方を十分に理解した上で、各教科等を合わせて指導が行われるよう、学習指導要領等における示し方を工夫することが重要です。

（平成28年8月26日特別支援教育部会における審議の取りまとめより）

3 各教科における見方・考え方

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になることは前述の通りです。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方です。これは、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが求められます。

以下に、各教科等における「見方・考え方」をまとめて示します。

言葉による 見方・考え方	児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること
社会的事象の 見方・考え方	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）
社会的事象の 地理的な見 方・考え方	社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせるもの
社会的事象の 歴史的な見 方・考え方	社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして働かせるもの

現代社会の見方・考え方	社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けて」働かせるもの
人間と社会の在り方についての考え方	社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること
人間としての在り方生き方についての考え方	社会的事象等を倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること
社会の在り方についての考え方	社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること
数学的な考え方	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、 <u>根拠を基に筋道を立てて考え</u> （中学校・高等学校では「理論的」と明記）、統合的・発展的に考えること
理科の見方・考え方	【小学校】自然の事物・現象を捉えるための視点や考え方を示し、それを軸とした授業改善の取組を活性化させ、理科における資質・能力の育成を図ること
	【中学校・高等学校】自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
身近な生活に関わる考え方	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする
音楽的な考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、 <u>生活や文化</u> （中学校・高等学校では「生活や社会、伝統や文化」と明記）などに関連付けること
造形的な考え方	【小学校】感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと
	【中学校】表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと
	【高等学校】表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働

	かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと
生活の営みに 係る見方・考 え方	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
技術の見 方・考え方	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること
体育の見 方・考え方	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること
保健の見 方・考え方	疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること
外国語によ るコミュニ ケーション における見 方・考え方	外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること
探究的な見 方・考え方	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方
探究の見 方・考え方	各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続けるという総合的な探究の時間の特質に応じた見方・考え方
集団や社会 の形成者と しての見 方・考え方	特別活動と各教科等とが往還的な関係にあることを踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること
情報に関す る科学的な 見方・考 え方	事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること

4 まとめ

各学習指導要領の「各教科等の解説」において示されている各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要なものであり、「深い学び」の視点からは、それらの「見方・考え方」を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に当たって、(1) 知識及び技能が習得されるようにすること、(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることが大切です。

<参考資料>

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編 平成 29 年 7 月
- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）各教科等編 平成 29 年 7 月
- 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編 平成 29 年 7 月
- 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説各教科等編 平成 29 年 7 月
- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成 30 年 3 月
- 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説総則編 平成 30 年 7 月
- 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説各教科等編 平成 30 年 7 月
- 文部科学省説明資料 特別支援学校高等部学習指導要領解説（1）平成 31 年 2 月
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 特別支援教育部会における審議のとりまとめについて（報告）平成 28 年 8 月 26 日
- 田村学「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりと「見方・考え方」
特別支援教育研究 東洋館出版社 2019 年 6 月号
- 井上昌士 新学習指導要領における「見方・考え方」の位置づけについて 特別支援教育研究 東洋館出版社 2019 年 6 月号